

# 第77回淀川河川敷の野草

## (外来種を中心に)

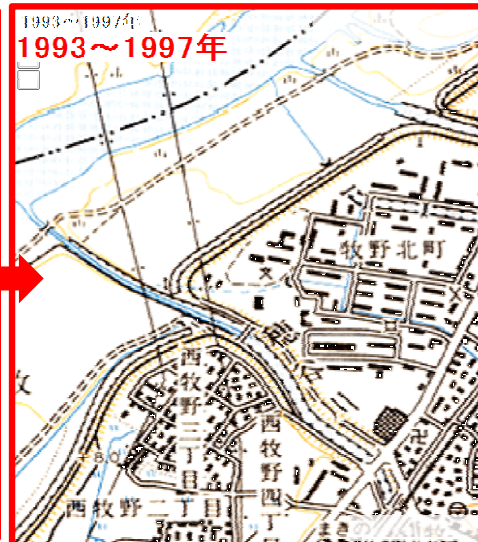
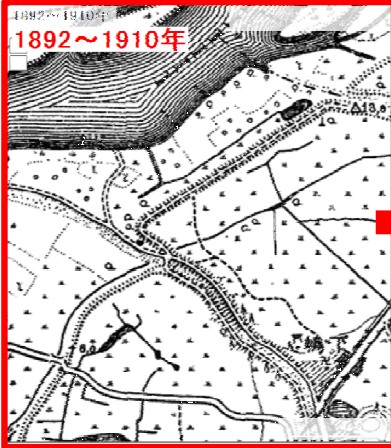
2018.4.26

日本野鳥の会大阪支部

平 軍二・香月清宏

出典：空中写真(国土地理院)  
今昔マップ( " )  
Googleマップ

### 1. 淀川河川敷・牧野周辺の変遷



(今日のコース)

- ① 牧野駅西側
- ② 穂谷川  
(淀川堤防)
- ③ 牧野グランド  
(淀川堤防)
- ④ 船橋川合流点
- ⑤ 穂谷川合流点
- ⑥ 枚方ゴルフ場  
東北入り口近く
- ① 牧野駅西側



大阪支部牧野定例探鳥会は、1997年3月にスタートしています。その頃の空中写真は見つからなかったので、地図で代用しています。

## 2. 大阪支部牧野探鳥会 (97年の記録)

牧野定例探鳥会は97年3月スタートしました。第1回目の97年3月にアカゲラ・トラツグミ・マヒワ、第4回目の6月にカッコウがでています。

牧野 (淀川上流) 定例探鳥会											
開始初年度(1997年3月～9月観察記録)											
番号	種名										現回数
		3	4	5	6	7	8	9			
1	カイツブリ	○	○						○	3	
2	カンムリキツブリ	○								1	
3	カワウ	○	○	○	○				○	5	
4	ゴイサギ			○				○	○	3	
5	ササゴイ				○				○	2	
6	ダイサギ	○	○	○	○				○	5	
7	コサギ	○	○	○	○				○	5	
8	アオサギ	○	○	○	○	○	○		○	7	
9	マガモ	○	○	○						3	
10	カルガモ	○	○	○	○					5	
11	コガモ	○	○							3	
12	ヨシガモ	○	○							2	
13	オカヨシガモ	○								1	
14	ヒドリガモ	○	○							2	
15	アメリカヒドリ	○								1	
16	オナガガモ	○	○							2	
17	ハシビロガモ	○								1	
18	ミコアイサ	○								1	
19	トビ	○	○							2	
20	オオタカ			○						1	
21	ハイイロチュウヒ	○								1	
22	ハヤブサ							○	○	2	
23	キジ	○	○	○	○	○				6	
24	バン	○								1	
25	コチドリ				○					2	
26	ケリ			○	○					2	
27	キアシシギ			○						1	
28	イソシギ	○	○	○	○				○	6	
29	チュウシャクシギ			○						1	
30	ユリカモメ	○	○							3	
31	セグロカモメ	○	○							2	
32	カモメ	○								1	
33	コアジサシ			○	○					2	
34	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	7	
35	カッコウ			○	○					2	

1998年出現鳥種数      51 52 42 36

◎牧野定例探鳥会 (3/2)  
 天候に恵まれ、記念すべき第1回目がスタート。探鳥会は参加者と出演者である鳥とて作りだすもの。又その時々様々な条件によって左右されながら紡ぎだされるもの。とすれば毎回異なる探鳥会になるはず。  
 まだまだ不慣れなスタッフ一同だが、常に新鮮な気持ちで頑張ります。どうか今後共よろしく願い申し上げます。  
 今回はアカゲラ、ベニマシコ、トラツグミ、ミコアイサ他…種類・個体数共たくさん観察出来た。(51種、50名)

◎牧野定例探鳥会 (6/1)  
 6月初旬にしては暑い一日。あれほど沢山居たユリカモメやツグミが姿を消し、カモ類もカルガモ以外は、旅立って行った。代ってカッコウが抱卵にやって来た。確実な季節の移ろいを実感させる一日だった。  
 他にササゴイ、キジ、コチドリ、ケリ、カワセミ、ウグイスもゆっくり見られた。(27種、20名)

一筆啓上  
つかまつり候



## 3. 今日の観察リスト表


ケーン  
ケーン



ホー  
法華経



牧野探鳥会の一楽・三重苦  
 ◎鳥が多い  
 ×自転車が多い  
 ×常設トイレがない  
 ×日陰がない



自転車に注意

# 4. 野草写真集

植物写真撮影日: 6月3日・5日(一部、以前に写したのもの)  
 写真配置: 科名・種名のアイウエオ順がベースであるが、  
 比較写真したい種は並べた



アカザ科  
シロザ(中国)



アカネ科  
ヤエムグラ



アカバナ科  
ユウゲシヨウ(南米)



180506  
セイヨウカラシナ群生



アブラナ科(西アジア)  
セイヨウカラシナ



(北米)  
マメゲンバイナズナ



アヤメ科 (北米)  
セッカニワゼキシヨウ



ニワゼキシヨウ(北米)



イグサ科  
コウガイゼキシヨウ



イネ科  
イヌムギ(南米)



カモジグサ



(欧州・西アジア)  
カラスムギ



ギョウギシバ



コバンソウ(欧州)



(欧州)  
ヒメコバンソウ



(北米)  
シマスズメノヒエ



(アフリカ)  
シナダレスズメガヤ



スズメノチャヒキ



スズメノカタピラ



ナギナタガヤ(欧州)



(欧州)  
ハナヌカススキ



(欧州)  
ネズミムギ



(欧州)  
ホソムギ(雌花・雄花)



オオバコ科  
ツボミオオバコ(北米)



(欧州)  
ヘラオオバコ

参考書籍:①野に咲く花(山溪ハンディ図鑑)

②日本帰化植物写真図鑑(全国農村教育協会)

③イネ科ハンドブック(文一総合出版)

④2017年度調査報告書(枚方生きもの調査会)

⑤淀川河川敷の草花(同会 2018.5.20三矢河川敷観察会資料)

⑥淀川河川敷(三矢地区)の外来植物の原産地 (木村雅行氏)

⑦楽しい北摂の山歩き(鶴殿のヨシ原)(大阪植物観察会)



ガガイモ科  
ガガイモ



カタバミ科  
ウスアカカタバミ



(北米)  
オッタチカタバミ



カヤツリグサ科  
メリケンガヤツリ(南米)



ミコシガヤ



(欧州)  
アメリカオニアザミ



ノアザミ



(北米)  
アメリカセンダングサ



(南米)  
ウラジロチチコグサ



(南米)  
オオアレチノギク



コウゾリナ



(欧州)  
セイヨウタンポポ



トゲチシャ(欧州)



ノゲシ



(北米)  
ヒロハホウキギク



ハルジオン(北米)



ヒメジョオン(北米)



(南米)  
メリケントキンソウ



キンボウゲ科  
センニンソウ



クマツヅラ科  
アレチハナガサ(南米)



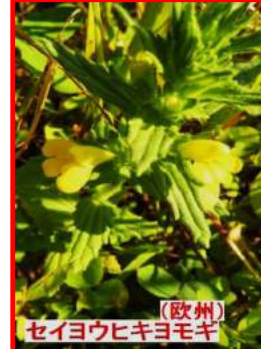
ケシ科  
クサノオウ



ゴマノハグサ科(西アジア)  
オオイヌノフグリ



(欧州)  
タチイヌノフグリ



(欧州)  
セイヨウヒキヨモギ



セリ科  
チドメグサSP

↑今日のコースより下流に

この観察会は外来種を中心に見ますが、企画のきっかけは4月牧野探鳥会(5月も)で、オドリコソウ(とネコノメソウ)を見たことがきっかけでした。6/5香月さんと一緒に探したところ、枯れた茎が残っていました。



シソ科(180401)  
オドリコソウ



(180605)  
オドリコソウ



センブリ科(地中海)  
ハマハナセンブリ



タデ科(欧州)  
アレチギシギシ



(欧州)  
エゾギシギシ



ギシギシ



イタドリ



イヌタデ



ママコノシリヌグイ



ミチヤナギ



ナス科(北米)  
ワルナスビ



ナデシコ科(欧州)  
イヌコモチナデシコ



ヒルガオ科(北米)  
アメリカネナシカズラ



(北米)  
アメリカネナシカズラ



フウロソウ科  
アメリカフウロ(北米)



マメ科  
カラスノエンドウ



(西アジア)  
クスタマツメクサ



(欧州)  
コメツブツメクサ



(欧州)  
シロツメクサ



ユキノシタ科(180401)  
ネコノメソウ



(欧州)  
ムラサキツメクサ



ナヨクサフジ(欧州)



マメ科(180506)  
ナヨクサフジ群生(欧州)

山地の小川沿い湿地で観察できるネコノメソウが、上記オドリコソウのすぐ近くにありました。昨年10月台風時の洪水で、種子が流れてきたと思われます。

## 5. 原っぱの自然遷移と野鳥

厳密にはいろいろ理論があると思いますが、専門家でない私が、万博公園で森の変化や、吹田市内の公園や空地の草刈頻度を見て、得た結論から以下のように類型化しています。  
すなわち、**草原→樹林への変化は草刈＝伐採頻度**で決まるといことです。

(草刈・伐採頻度)	(草原・林の状態)	(特徴的な植物)
①年3～4回以上	シバ草原(草丈10cm)	シバ・ニワゼキショウ
②年1～3回	チガヤ草原(草丈50cm)	チガヤ・秋の七草
③1年・2年に1回	ススキ草原(草丈1.5m)	ススキ・セイヨウアサダ
④数年に一度	ネザサ林(草丈2～5m)	ネザサ・低木
⑤～15年	里山林(樹高10m～15m)	アカマツ・雑木林
⑥～50年	里山放置林(樹高20～30m)	落葉樹→常緑樹
⑦100年～	極相林(樹高30m以上)	原生林・鎮守の森



### 淀川牧野周辺の環境変化

河川敷は上記の樹林と違い、水害対策のため高木は伐採し、草原にしておきたい場所です。昨年から穂谷川合流点・磯島グラウンドまで約2.5kmの樹林が伐採されており、あと残り700mほど残っているのみです。伐られた木の年輪を見ると20年前後が多いので、20年前(牧野探鳥会が始まった頃)に一度全伐されていたと思います。

昨年探鳥コースの木が伐られている、山野の鳥が少なくなりましたが、20年たてばもとに戻ります。私にはその日を見ることはできませんが、月々の変化を楽しみたいと思っています。  
毎月第1日曜日午前9時(今日の場所)集合で開催しておりますので、ご参加お待ちしております。

## 6. 帰化植物・史前帰化植物

日本帰化植物写真図鑑より  
(全国農村教育協会)

### 帰化植物と史前帰化植物

「植物の歴史」の記録は、日本では漢字が渡来したと言われる4世紀以降となります。過去1600年ほどの、記録のある時代に持ち込まれて野生化した植物が帰化植物となりますが、一般的には明治維新(1868年)前後からのものを帰化植物と扱っています。また、ヨーロッパ諸国との交流が始まった安土・桃山時代からのものを帰化植物と扱う、という見解もあります。

一方、ナズナやヤエムグラなどは、文字で記録されるはるか昔に、農耕技術の伝播に伴って「人力によって持ち込まれた」植物群である、という説が前川文夫氏によって提唱されました(前川：1943)。氏は軍隊生活を過ごした中国大陸で植物を観察して、このことに思いついたとのこと。これらの植物群は「史前帰化植物」と呼ばれています。笠原安夫氏は、西日本の縄文・弥生時代の水田などの遺跡に含まれる雑草の種子を丹念に調べ、「史前帰化植物」の記録を土の中から掘り起こすことに成功しました(笠原：1982)。

本書では、原則として榎本敬氏の作成したデータベース(榎本：1997)を元に、明治維新前後から帰化植物として記録されたものを収録しましたが、特徴的な種についてはそれ以前のものも含めてあります。

### 次回の植物観察会予定(案)

#### テーマ: 関西大学の大きな木

時期: 18年9月下旬～10月初旬頃

内容: 2017年度に一年間かけて、吹田市内にある大きな木(幹周2m以上＝直径70cm以上の木)を調査しました。これまで、1997年420本、2007年928本に対し、2017年は1709本見つかりました。吹田市で環境省の巨樹レベル幹周3mの木が多い関西大学キャンパスで、吹田の大きな木を紹介したいと思います。  
詳細は、むくどり8月号に掲載しますので、ご確認の上、参加申し込みをお願いします。
